

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300526
法人名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事業所名	グループホーム 田園
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町5369番地1 (電話) 0994-40-3151
自己評価作成日	令和6年2月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は静かな田園地帯にあります。自動車などの騒音もなく、施設の庭には柿木、梅の木、キンカン、キウイ等の木があり、収穫の手伝いをしてもらいながら食べてもらっています。また、畑も別のところがあり、そこではスイカ、サツマイモ、ジャガイモ、ダイコン、とうもろこし、里芋などの野菜を栽培して季節ごとに収穫して食べてもらい楽しんでもらっています。また、庭には花も季節ごとに咲いていて、梅の花、さくら、コブシの花、紫陽花、つつじ、サルスベリ、バラの花など楽しめます。施設内は多目的ホールが52畳ありゆったりと過ごせます。玄関からトイレ各居室浴室へはバリアフリーです。また、町内会に参加しています。地域行事の棒踊りの来訪問されての踊り披露や八月踊りの見物、小学生の体験学習訪問などの地域交流があります。ご希望の方は町内のグランドゴルフ大会への参加もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、鹿屋市郊外の静かな田園地帯の集落に立地し、季節を感じられる花や果樹が植えられた広い敷地に建てられている。
- ・昨年12月から家族との居室面会を再開し、コロナ禍前のような交流を支援している。毎月「田園便り」を送付し遠方の家族にも安心してもらえるようにしている。来年度からは、家族の要望に沿って外出・外泊にも取り組む予定である。
- ・回覧板で地域情報は把握しており地域行事への参加はまだ機会がないが、町内会の棒踊りが再開され事業所でも披露してもらっている。施設長が消防団員であり地域の一員として活動しており、近隣住民からの野菜の差入れや外出した利用者について近隣住民から連絡がある等、地域との協力及び交流が行われている。
- ・代表者及び管理者は、職員の資格取得や研修受講を支援して助成も行っており、前向きな気持ちで業務に取り組めるように職場環境づくりにも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は地域密着型サービスを踏まえている。玄関、ホール、事務所に掲示して、毎朝職員一同で唱和して理念の共有と実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念に見直し、パンフレットに掲載する他、事業所内の数ヶ所に掲示している。毎朝理念を唱和し、理念に沿った実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加して地域の一員として自治会活動や、代表者は班会の班長をしたり、地元消防団にも所属して活動している。また、小学生の体験学習も受け入れている。	町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。棒踊りの披露に来てもらったり八月踊りの見物で地域との交流をしている。施設長は消防団員として活動している。住民から野菜の差入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々だけでなく、希望者は認知症の方への家族の方の相談や施設内見学をしてもらい、説明などを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催しているが、コロナ影響で書面開催となる時もあった。ご意見や評価には真摯に向かいサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を書面または対面で実施し、事業所の状況報告及び意見交換を実施しており、書面開催時も委員から意見が寄せられている。事業所への理解を得る機会であり、意見はサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の高齢福祉課や福祉政策課の担当者とは分からないことなどがあれば相談して意見をいただいている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議での意見交換や出向いての相談で連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築いており、電話や出向いた際に情報交換を行っている。市の研修会や説明会に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止については外部研修と施設内研修をして、言葉使いなどお互いに注意して、玄関の施錠はせずに本人が出かけたときは散歩などに同行して、制限のない介護をしている。</p>	<p>指針を作成しており、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年1回実施している。日中の玄関は施錠せず、外に出たい利用者に気づいたら敷地内の散歩に同行しているが住民から連絡を受けることもあり、地域の協力も得て身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待についてはどういったことが虐待になるのか施設内研修をして話し合い虐待にならないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度などを外部研修で学び、施設内研修でも入居者様で利用されている方もおられたことがあり、身近に感じて必要な方には活用できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時には必ず、重要事項説明書、契約書、運営規定を読み上げて説明して疑問点などあればお答えして理解納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者のご家族の意見など要望があればご面会される都度お聞きしたりして、介護運営に反映している。</p>	<p>利用者には日常会話で要望を聞き、自宅訪問への同行や好物を食事に取り入れる等している。家族には、面会時に要望等を聞いてその都度対応に努めているが、外出・外泊の要望については新年度から実施予定であることを伝えている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員との意見交換は毎朝の申し送りや職員会議の時に意見を聞いて介護運営に反映させている。</p>	<p>管理者は、申し送りや職員会議で職員の意見を聞く機会を設けており、ケアの統一を図る等、運営に反映できるよう努めている。また、個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>向上心に配慮した資格取得の費用補助や研修参加への配慮をして勤務日の調整など働きやすい職場環境と条件整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>希望があれば実地に研修参加できるように配慮している。また、WEBでの研修も受けられるようにして働きながら研鑽できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーに他の施設の管理者になっていただき相互に訪問することによって情報交換をしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時のアセスメントでご本人やご家族の困りごとなどをお聞きして、ご本人が安心して生活できるように信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の事前の情報やアセスメントでご家族の困りごとや不安などで必要としている支援を確認しながら寒けづくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時に施設で支援できることなどの説明やご家族の必要としている支援などをお聞きして、総合的に他のサービスも検討しながら対応していく。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の出来ること出来ないことやしたいことなどをお聞きして、施設での役割を持ってもらい共に生活する者同士の関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人をご家族が預けているだけの関係でなく、面会や施設からの近況報告などを通じて状況を知ってもらいながらともに本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで利用されていた場所やなじみの人などのところへ希望されればお連れして、今までの関係が途切れないように努めている。	家族との居室面会再開や馴染みの美容院利用など、家族との交流を積極的に支援している。職員も馴染みの場所のドライブや希望で自宅訪問に同行する等、これまでの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設での生活状況を把握して仲良しの人同士が隣同士になるようにテーブル席を配置して利用者同士が孤立しないように楽しく生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された人がどのような状況下を把握しながら、再入所希望などには空き状況を見ながら優先的に入所できるように相談支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	うまく言葉で表現できない人などは普段のしぐさや生活のくせなどをみながら、本人の望みを把握して本人本位の生活ができるように検討している。	自分で思いを伝えられる場合は、日常の会話で把握できるように努めている。言葉の表出や意思疎通が困難な場合は、アセスメントを参考に本人の表情や仕草等から思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況をアセスメントしながらこれからの生活を楽しくできるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活や今までしてきた趣味や特技など本人の有する能力を理解して把握することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、職員の介護上の気づき、主治医の意見などを入れてよりよく生活できるように話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	電話や面会時に家族の希望を把握している。担当者会議で職員と管理者が本人や家族の意見を基に検討し、介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、計画の見直しは6ヶ月毎及び状況変化時に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人一人の介護記録を記入して、体調の変化や状況を職員間で話し合いながら必要に応じて介護計画の見直しなどに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況を把握して、その都度生まれる変化へ対応して、買い物や病院受診、美容院、レストラン等への送り迎えなど柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力のもと、地域の行事への参加や地域の方々の訪問等交流を通して豊かな暮らしを楽しんでできるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を利用される方はそのまま利用できるように支援して、施設への訪問医を希望されれば紹介をして適切な医療が受けられるように支援している。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、継続受診を支援しており、月2回の訪問診療を多くが利用している。受診は管理者が対応しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、口吊の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には正看護師と准看護師がいて、介護職員と連携しながらその日の気づき等を看護師に伝えて相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすぐに病院への情報提供書を渡して、適切な医療が受けられるようにしている。また訪問医とは必要な情報はいつも提供して医師の指示で必要な介護支援をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設には重度化終末期に向けた指針があり、入所時に説明をして同意をいただいた場合には看取りまで支援できることを説明している。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、看取りの同意書ももらっている。契約時に特別養護老人ホームの申し込みをしている場合もある。段階的に管理者から家族に経過を説明し、家族の意向を確認している。重度化の場合に医師から家族に説明し、意向を再確認し、意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時への対応として看護師の指導の下対応を訓練している。また事故発生時に備えて救急救命方法を消防署での講習を職員全員は受けて定期的に訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に1回消防署指導による訓練と地元消防団による訓練をし協同している。また食料も3日分を備蓄している。施設は高台にあり、水害の危険はない。また近所の方の協力も得ている。</p>	<p>年2回夜間想定で避難訓練を実施し、消防署の立ち合いが1回ある。消防団員として施設長が訓練に参加し、隣家の住民の参加協力もある。非常用の備蓄は、3日分の水・缶詰・レトルト食品・米等の食料及び発電機を準備している。今後、地震避難訓練の実施も予定している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して、声掛けはさん付けでお呼びしている。トイレ誘導や入浴時もさりげなく声掛けして誘導している。	外部研修を受講している。さん付けでの呼びかけや入室時の声かけ、希望で同性介助の実施、ベッド上の排泄介助時はドアを閉める等、誇りやプライバシーを損ねないよう努め、ホールでの申し送り時は、利用者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活ができるように普段の介護において思いや希望を理解できるように努めて、意思決定を言葉で表せない人の思いを把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間などその人のその日のペースを優先して安心して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人のおしゃれのこだわりや身だしなみになるように、希望に合わせて美容院やお化粧品品の用意などをして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に本人の好きなものや嫌いなもの等をお聞きして提供している。また、季節の野菜や果物など、自家栽培のものを提供して楽しんでもらっている。	献立は利用者の意見を聞いて、旬の野菜を使い調理し、個々に応じて刻み食等の食べやすい形で提供している。誕生日の好物やケーキ、季節の行事食等で食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量などを医師と連携して適切になるように毎日チェックして一人ひとりの健康管理をしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを自分で出来ない人はスポンジブラシや特殊ブラシ、マウスシートなどを利用して磨き残しがないように口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄チェック表を使い排泄間隔を把握して尿意便意のない人も出来るだけトイレでできるように誘導支援して、自立に向けた取り組みをしている。	個々の排泄パターンを参考に声かけ誘導し、2人介助も実施し、できるだけトイレでの排泄を支援している。排泄用品の使用量減少の改善例がある。ポータブルトイレや夜間のみオムツを使用する等、利用者の身体状況に配慮した支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分量のチェックや野菜を繊維質のあるものを食べてもらうように提供している。また、ラジオ体操など運動もしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に3回の入浴日があるが、失禁など汚れたときも入浴してもらい不潔にならないようにしている。またその時間帯によっては拒否される方は時間をおいて入浴してもらうなどしている。	週3回午前の入浴を基本に実施している。柔軟に対応し必要時は2人介助もしている。汚染時のシャワー浴や入浴を嫌がる場合は時間を変えて入ってもらう等、清潔に気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり眠るペースがあるので眠る時間もその人に合わせている。お部屋でテレビを見て過ごされる方もおりそれぞれ個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一人ひとり個別にしている、職員も使用目的を理解しながら誤薬や飲み忘れのないよう職員同士もチェックして症状の変化の確認にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節ごとの変化を感じられるように、畑でとれた季節の野菜や果物などを提供して季節感を味わっていただき生活に楽しみ事や気分転換などになるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は散歩や日向ぼっこを施設内でしているが、コロナ後の今年からは季節によっては花見などや普段いけないような場所などにでかけるように支援していく。</p>	<p>天候の良い日は日光浴や敷地内の散歩をしている。ドライブで車窓から花見をしたり、希望で個別に自宅訪問やドライブを実施しており、家族と外出する利用者もある。今後は、計画を立てて外出支援に取り組む予定である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>その人の理解力に応じて財布を持ちたい人にはお金を入れて所持してもらって使えるように支援している。買い物も同行して支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個人個人で携帯電話をお持ちの方もおられて利用されている。また、本人の希望に応じて電話するお手伝いやお手紙のやり取りを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から52畳の食堂兼の多目的ホールがすぐあり、トイレ、浴室へも近くて、ホールでは個々の方々もゆったり過ごせる。ホールは天窓もあり明るい。窓も広くて各部屋からも外が眺められて季節感を感じられ居心地よく過ごせるようにしている。	ゆったりと広いホールは天窓があり明るく、空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節されており、換気は窓を開けて行っている。壁には季節の作品や写真が飾られ、利用者が好みの場所でくつろげるようにソファ等が置かれている。テーブルは車いすの動線を考慮して配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のホールは52帖あり、一人になれたり、仲良し同士で過ごせたり、ストレスのない空間で思い思いに過ごせる一人一人の居場所になるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くてなれ久しんだ家具や仏壇も持ち込める広さがあり、エアコンや箆筒、鏡付き洗面台は備えてある。希望者はソファもおけて居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、ベッドやタンス・洗面台・ソファ・エアコン・寝具が備えてある。本人はテレビや位牌を置いたり、写真を飾って安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	玄関からホール、トイレ、各居室、浴室までバリアフリーになっている。ホールからは各居室が見えて異変には職員がすぐ対応でき安全で安心して自立した生活もできるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない